

## 令和元年 豊橋市健幸なまちづくり協議会歯科保健推進部会 議事録

日 時 令和元年8月22日(木)午後2時30分から午後4時

場 所 保健所・保健センター 第1会議室

出席者 豊橋市健幸なまちづくり協議会歯科保健推進部会委員13名

【報告】第1回口腔保健支援センター運営会議及び豊橋市歯科口腔保健推進計画目標について

委員K

小中学校の歯科検診は、2次検診を実施し、再度未受診者に受診を促しており、学童期におけるむし歯と歯周炎予防において成果がみられたと思われる。

【議題】1 成人期における歯周病と歯の喪失予防について

委員F

生活習慣病予防健診の案内を加入事業所へ送付する際に、歯科検診を受診できる機会を紹介している。口腔ケアによる生活習慣病予防コホート調査研究事業を愛知県歯科医師会と合同で実施予定である。

委員B

働く世代について企業検診が進んでいない現状から、関係団体と協力し従業員を対象に調査を行った。企業内で健康管理を行う方を対象に研修会を実施した結果、検診実施企業が増加した。

委員A

いろいろな取組みによって検診を行う企業が増えているが、できるだけ自治体を実施している検診を活用し、受診率が増えていくようにするのが課題である。

委員E

薬局では、歯科用の医薬品について店頭で知識の普及に努めており、子どもや高齢者に対して薬の説明をするときに歯と口の健康が大事であることを伝えている。

委員M

妊産婦の歯科健診は母子健康手帳発行時にパートナーと一緒に歯科健診の必要性を説明し受診勧奨している。また、産科の医療機関に受診勧奨していただけるように依頼していきたい。

委員L

健康宣言事業所を募集の際のメニューの一つとして検診受診があるが、歯周病検診にチェックを入れている事業所が少ない。今後、検診だけではなく出前講座などを踏まえて広報に力を入れていきたい。

委員A

歯周疾患検診は様々な自治体で実施されているが、周知の仕方を検討してほしい。最終的に歯がたくさん残ることが目標で、良い状態で残っているためには歯周病がない状態が良いので、歯周病を減らす取組みをいろいろな方面から進めて欲しい。

## 【議題】2 高齢期における歯の喪失防止について

### 委員J

「シニアのための食とお口の健康講座」は、歯科医師会の協力のもと、管理栄養士の話と歯科衛生士の口の体操の内容で、地域包括支援センターに委託し実施している。実践的な内容を盛り込み、栄養や口腔について学ぶ機会となっている。

### 委員I

歯科検診を自分で受けられない方に対して訪問歯科健診を実施している。歯科健診と歯科衛生士による口腔ケアや指導を実施し、その後、どの程度口腔機能が向上しているか検証している。結果、半数以上の方に口腔機能の向上がみられた。

### 委員C

要介護4・5から回復してくることは難しいが、自分で歯みがきができる程度の要介護3の方を重点にデータを分析、要介護度の改善が可能か調査できるとよい。その結果を踏まえ、今後必要な検診等について考えていきたい。

### 委員G

在宅での要介護3・4・5の方は、介護する側の意識で変わってくる。包括支援センターには出前講座の依頼が多くあり、お口の健康に関する講座のリクエストが多いので、お口の健康に関心がないわけではないと思う。

### 委員H

人材不足が問題としてあり、仕事をしながら事業への参加をすることになると、参加しにくい曜日も多い。また、事業の参加者の様子から、活発な女性が多く男性が少ない。興味を持っている方に受講してもらうことは大事だが、そうでない方をいかに取り込むかが課題である。

### 委員D

高齢になると口からの摂取量が落ち、精神的、社会的側面においてまで影響を与え、社会参加の低下、閉じこもりを引き起こすため、高齢者に伝わりやすいオーラルフレイルの啓発は重要と考える。

### 事務局

オーラルフレイルに関して、年齢が上がってきてから対策を取るのでは遅いため、歯周病検診に来られた若い年代の方に、40代50代60代のときに影響することを説明するよう取り組んでいきたい。

### 委員A

口腔機能の維持は歯の喪失など歯科疾患の予防につながるため、歯周病検診でもオーラルフレイルに関する情報を提供して欲しい。

### 事務局

オーラルフレイル対策では、歯科口腔保健推進計画の中で「自分の歯でおいしくものを食べること」を目指しており、これはオーラルフレイルにつながるものである。フレイル対策としても福祉部と健康部でいろいろ考えているところであるが、それに合わせて歯科についても考えていかなければならない。口腔保健支援センターとして今後議論を推し進めながら、関係団体と連携し、人材の育成と併せて議論を進めていきたい。